

一般検査学実習

責任者：香取尚美・脇田満
学年・学期：第1学年・後期

単位数：1単位（30時間）

◆一般目標(GIO)

尿一般：検体検査の中で最も基本的な尿検査を中心に、各種検査法の原理、手技、結果の解釈について、実際に検体を用いて実施する。また、知識と技術を修得するだけでなく、将来臨床検査技師として実務に携わる際の基本姿勢を身に付けることを目的とする。

寄生虫：一般的なヒト及び動物の寄生蠕虫および原虫の鑑別方法および検査手技を固定標本を用いて習熟する事を目的とする。

尿沈渣：尿に含まれている代表的な細胞成分、円柱、塩類・結晶等を鑑別するための顕微鏡操作をはじめ、鏡検用標本の作製および染色法を修得する。

◆到達目標(SBOs)

1. 尿の一般的性状(尿量、外観、臭気など)が理解できる。
2. 尿比重の意義および尿屈折計の使用法が理解できる。
3. 尿糖、尿蛋白の臨床的意義および測定原理が理解できる。
4. 比色計の原理および操作が理解できる。
5. 検量線の作成ができ、未知の濃度を求めることができる。
6. 血尿、潜血便の臨床的意義と検査法の原理および判定ができる。
7. ビリルビン代謝, 腸肝循環, ウロビリノ体の各検査法の原理および判定法が理解できる。
8. 黄疸尿の意義が理解できる。
9. 脳脊髄液の臨床的意義および細胞数算定法について理解できる。
10. 目的とする寄生虫検査や診断に適切な方法を選び出す事ができる。
11. マイクロメーターを使って虫卵等のサイズを算出することができる。
12. 代表的な虫卵の特徴を観察し、鑑別点を説明できる。
13. 代表的な原虫のシストやオーシストの特徴を観察し、鑑別点を説明できる。
14. マラリア原虫の染色塗抹標本を作製し、特徴と鑑別点を説明できる。
15. 尿沈渣を観察する目的を説明でき、標本の作製(無染色、ステルンハイマー染色)ができる。
16. 赤血球、白血球、上皮細胞などと、誤認しやすい尿中有形成分の判別ができる。
17. 尿中の有形成分の判別を無染色、ステルンハイマー染色を利用して鑑別できる。
18. 尿沈渣中にみられる有形成分の臨床的意義を説明できる。

◆学習方法

尿一般：教科書を中心に実習を行い、必要に応じて資料を配布する。

寄生虫：必要に応じてプリント、資料を配布し、教科書、参考書の不十分な部分を補い理解を助長する。

尿沈渣：必要に応じて、スライド、プリントを使用し、実際に多くの尿沈渣などを鏡検し、沈渣に対する検査方法の習慣を身につける。

◆評価方法

出席を考慮し、レポート、実習態度、定期試験で総合的評価を行う。

◆教科書

臨床検査学講座 『一般検査学』 三村 邦裕 他編 医歯薬出版(株)

臨床検査学講座 『医動物学』 平山 譲二 著 医歯薬出版(株)

◆参考書

『寄生虫鑑別アトラス』 佐伯 英治 他著 メディカルサイエンス社

◆教員紹介

担当教員は病院での勤務経験に基づいて、臨床検査技師養成に向けた授業を展開する。

回数	項目	講義内容	担当
1	ガイダンス	検査技師としての心構え、見出しなみ、尿の一般的性状、組成、検査法について	香 取
2	尿混濁試験		
3	尿糖、尿蛋白 定性・定量試験	尿糖、尿蛋白の臨床的意義と各検査法の原理、操作法・判定法について 比色計の原理、検量線作成	〃
4			
5	血尿、血色素尿、 ビリルビン、ウビリノゲン 糞便潜血検査	血尿、血色素の臨床的意義、ビリルビン代謝、腸肝循環について、黄疸尿の意義、糞便の一般的性状、各検査法の原理、操作法、判定法	〃
6			
7	脳脊髄液 細胞数算定	脳脊髄液の一般的性状および臨床的意義 細胞数算定法および意義について	〃
8			
9	寄生虫検査法総論と ガイダンス 寄生蠕虫の虫卵 および成虫の鑑別	各種寄生虫検査法の手技と検出能 顕微鏡を用いた顕微鏡計測法の習熟 固定標本を用いて、成虫及び虫卵の 特徴を観察する	〃
10			
11	寄生原虫の鑑別	固定標本を用いて、染色を施した原虫の 特徴を観察する。免疫クロマトグラフィによるマラリア原虫の検出の原理を学ぶ	〃
12			
13	尿沈渣①	概論、無染色とステルンハイマー染色による顕微鏡観察（血球・上皮細胞・結晶）	脇 田
14			
15	尿沈渣②	無染色とステルンハイマー染色による顕微鏡観察（尿細管上皮細胞・円柱）	〃
16			